

■ 経営学部 会計ファイナンス学科

教育研究上の目的
学則第1条（目的） 本大学は、教育基本法及び学校教育法並びに本学の設立趣意書に基づき、高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材を養成することを目的とする。
学則第2条の2（学部及び学科） 経営学の基本的な知識・理論に基づいた高度な会計学やファイナンスの理論、及びビジネスをデザインする能力を習得した、有為な社会的人材を養成する。このための諸科目を専門科目として体系的に配置する。同時に、教養科目群として社会科学・人文科学・自然科学・語学・体育・情報処理などの科目も幅広く配置し、グローバル化、複雑化した社会に対応できる広い視野と豊かな教養とスキルも養成する。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
経営学部会計ファイナンス学科では、学則第2条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「学士（経営学）」の学位を授与します。
（知識・技能） 1. アカウンティング、ファイナンス、ビジネスデザインなどの分野の専門知識を身につけている。 2. ビジネス・マネジメント、流通・マーケティング、情報システム、国際ビジネスなどの分野の基礎知識を身につけている。 3. ビジネスの現場における問題を発見、分析、解決するために必要な情報を集めることができる。 4. 幅広い教養、豊かな人間性および社会的倫理観を身につけている。
（思考力・判断力・表現力） 1. 上述の知識、及び集めた情報を筋道立てて活用し、ビジネスの現場における問題の発見、分析、及び解決策の提案ができる。 2. 上記の一連の流れを、分かりやすく言語化することができる。
（主体性・多様性・協働性） 1. 国際的教養と視野を持ち、様々な場面で適切なコミュニケーションを取れる能力を有している。 2. 多様な人々と協力して地域社会に貢献する意欲と能力を身につけている。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
経営学部会計ファイナンス学科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、全学部共通で示す教育課程の編成・実施方針に加え、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。
（教育内容） 1. 広義の経営学を7分野に分け、会計ファイナンス学科にはこのうち「アカウンティング」「ファイナンス」「ビジネス・デザイン」の3コースを設ける。 2. 経営学部両学科各コースの基礎的知識を横断的に学修できるよう、「学部共通部門」を設置する。 3. 会計ファイナンス学科共通の基礎的知識・技能を横断的に学修できるよう、「学科共通部門」を設置する。 4. 所属コースに関する専門的内容を深く、体系的に学修できるよう、コースごとに科目群を配置し、それぞれに必修科目、選択必修科目を定める。 5. ビジネス・マネジメント等の学修機会も得られるよう、経営学科の科目も柔軟に履修可能とする。 6. 各科目で学んだ知識、考え方の総合力、応用力、表現力を涵養するため、各コースとも専門演習4単位を必修とする。 7. 幅広い教養、豊かな人間性、社会的倫理観、及び国際的教養と視野を身につけられるよう、共通教育科目の「外国語」「数理・情報」「自然」「社会」「人文」「体育」の各分野にそれぞれ必要修得単位数を設ける。
（教育方法） 1. 専門演習や入門演習等の演習系科目においてはアクティブ・ラーニング、PBL(Project Based Learning、課題解決型学習)等の教授法を積極的に取り入れ、知識を伝授する座学にとどまることなく、知識を基盤とした能動的学修を通じて、実践的な教育を目指す。 2. LMS(Learning Management System：オンラインによる学習管理システム)として「Moodle」を活用し、学生との双方向的な教育を推進する。 3. 演習系や実習系の科目に対する少人数制や大人数科目に対する分割開講などの採用により、授業内容・形式に応じた適切な履修者数を設定する。 4. シラバスにおいて「準備学習・事後学習」を全授業科目で明示することで、学生の授業外での学習を促し、学習時間確保と単位の実質化に努める。 5. 履修モデル、カリキュラムマップを示すことにより、体系的・段階的な学修ができるようにする。
（学修成果の評価） 経営学部会計ファイナンス学科では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位

愛知大学 3つのポリシー（2024 年度向け）

授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。

1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、GPA 分布（年度毎、通算）、留年率、必修科目や専門演習の成果評価割合等により行う。
2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行う。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

経営学部会計ファイナンス学科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

1. 求める学生像

- (1) 企業活動、金融市場の動向などダイナミックに変化している経済社会に強い関心をもった学生。
- (2) 一般企業、行政および教育などのさまざまな領域で活躍し、社会に貢献することを考えている学生。
- (3) 公認会計士、税理士および国税専門官などの会計専門職を目指そうとする学生。

2. 入学前までに修得すべき能力

（知識・技能）

- (1) 高等学校段階の国語、外国語、地理歴史、公民、数学等についての十分な、あるいは本学科での学習に円滑に移行することができる程度の基礎学力。

（思考力・判断力・表現力）

- (1) 高等学校段階程度の論理的思考力・判断力・表現力。

（主体性・多様性・協働性）

- (1) 様々な課題に積極的に取り組んできた能力。

3. 選抜方法

(1) 一般選抜

基礎学力をバランス良く備えた入学者を選抜するために、3教科以上を課し、その結果を総合判定して合格者を決定する。

(2) 総合型選抜

出願資格に応じた入試区分を設け、出願書類、小論文、面接等により総合判定して合格者を決定する。

(3) 学校推薦型選抜

調査票（全体の学習成績の状況）、資格点、面接、学科試験により総合判定して合格者を決定する。